



# 奈良県感染症発生動向調査還元情報(週報)

奈良県感染症情報センター（奈良県保健研究センター内） [Nara IDSC](#)

## 今週の概要

- 第 29 週の感染症情報
- 流行感染症情報：手足口病
- 奈良県結核患者情報（平成 25 年 6 月）
- 保健研究センター 7 月だより～（速報）今夏の手足口病の原因ウイルスについて～

## ⊕ 第 29 週の感染症情報（7 月 15 日(月)～7 月 21 日(日)）

奈良県および医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	手足口病	5.71	↑	↑	↑	→～↑
2	感染性胃腸炎	1.71	→～↓	→～↓	→	↓
3	ヘルパンギーナ	1.59	↑	↑	↑	→
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.44	→～↓	→～↓	→～↓	↓
4	水痘	0.44	→～↓	→～↓	→～↓	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

**県北部地区概況** 報告数（28→29週）は185→186例と推移した。上位5疾患は、①手足口病（95→106例）（定点あたり6.24と警報基準5を超えている。）、②ヘルパンギーナ（21→33例）、③感染性胃腸炎（30→19例）、④A群溶連菌咽頭炎（14→9例）、⑤水痘（10→7例）、眼科定点の報告は急性出血性結膜炎が1例あった。基幹定点の報告は無菌性髄膜炎が1例あった。（有山 記）

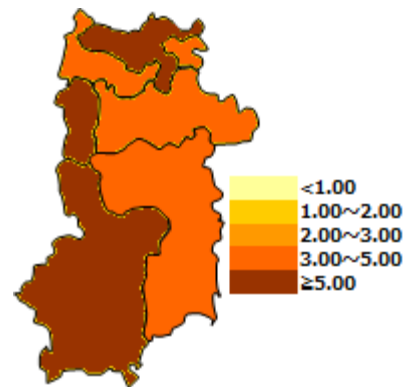
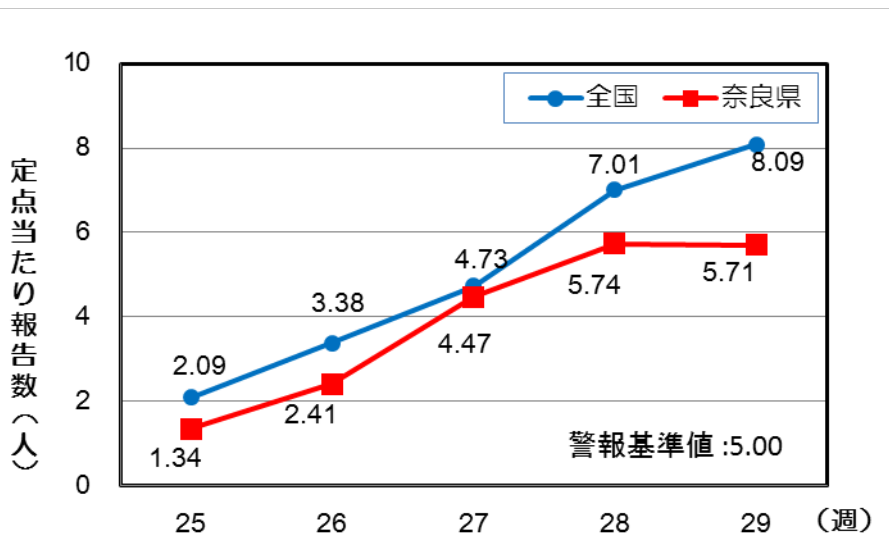
**県中部地区概況** 報告数は145例で、前週報告の166例から減少。上位5疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③ヘルパンギーナ、④水痘、⑤A群溶連菌咽頭炎の順で、手足口病の定点当たりの報告数は5.36と流行発生警報継続中。ヘルパンギーナの報告数（13例）は、やや増加。水痘の報告数（7例）は、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（75例）は、一旦減少に転じた。感染性胃腸炎の報告数（37例）は、やや減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（6例）も、やや減少。桜井 HC および葛城 HC 両管内基幹定点と眼科定点からの報告は、すべてなかった。（村井 記）

**県南部地区概況** 報告数（28→29週）は29→25例と推移。報告のあった疾患は、①手足口病（14→13例）、②ヘルパンギーナ（9→8例）、③感染性胃腸炎（3→2例）、④咽頭結膜熱（1→1例）、④水痘（1→1例）であった。

（柳生 記）

### 《流行感染症情報：手足口病》

第29週の奈良県全体における定点あたり報告数は5.71（報告数194）と、警報基準値を超えています。全国値は8.09であり、依然として増加傾向にあります。



保健所別定点あたり報告数

感染症情報センターホームページ  
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm>



# 【奈良県結核患者情報】

奈良県感染症情報センターでは、結核患者発生動向情報を提供しています。  
6月の届出状況は、以下のとおりです。

表. 結核届出数（平成25年1月～）

市町村	6月	総計	
北部	奈良市	4	47
	大和郡山市	1	13
	天理市	3	9
	生駒市		14
	山添村		
	平群町	1	4
	三郷町	2	4
	斑鳩町	1	5
	安堵町		2
中部	大和高田市		7
	御所市		3
	香芝市	1	2
	葛城市		2
	上牧町		
	王寺町	2	3
	広陵町	3	8
	河合町		2
	橿原市	7	15
	桜井市	1	9
	宇陀市	1	3
	川西町		5
	三宅町		
	田原本町	1	6
	曽爾村		
	御杖村		
	高取町	1	1
明日香村	1	1	
南部	吉野町		1
	大淀町		1
	下市町		1
	黒滝村		
	天川村		
	下北山村		
	上北山村		1
	川上村		
	東吉野村	1	1
	五條市		1
	野迫川村		
十津川村			
合計	31	171	

(7月25日現在)

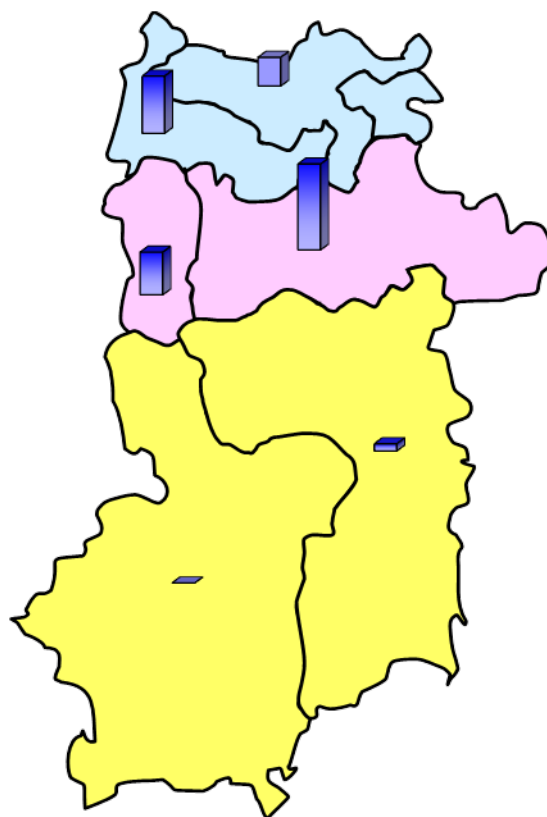


図. 保健所別届出数  
(平成25年6月受理分)

# 【保健研究センター 7月だより】

## ～（速報）今夏の手足口病の原因ウイルスについて～

現在、本県では乳幼児を中心に手足口病の患者が急増し、警報レベルに達しています。今年の患者報告数は大流行となった2011年に次ぐ勢いです。今月のセンターだよりでは、主に医療機関の関係者の方に、手足口病の原因ウイルスについて近況を報告します。

### 手足口病原因ウイルスの経年変化について

手足口病の主因となるウイルスは、コクサッキーウイルスA群16型やエンテロウイルス71型などエンテロウイルス属の複数のウイルスがあるため、一度罹患しても他のウイルス種の感染で再び発症する可能性があります。

原因となるウイルスは表1に示したとおり年毎に変化しています。

表1. 本県の手足口病患者検体から検出したウイルス種(2008-2013)

ウイルス	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
CA 4			1			
CA 6				8		1
CA 9					1	
CA 16	10			2		
E 9					1	
EV 71		1	13			4

CA:コクサッキーウイルスA群

E:エコーウイルス

EV71:エンテロウイルス71

### 今夏の奈良県の状況等について

2011年に大流行したコクサッキーウイルスA群6型に罹患歴のある2歳以上の幼児は他のウイルスによる感染が予想されません。

現在までのところ、感染症発生動向調査における今夏の当センターの検査結果では、エンテロウイルス71型が多数を占めています(表2)。エンテロウイルス71型は他のウイルスより重症化する傾向があり、髄膜炎や脳炎の合併に注意が必要とされています。

一方、他府県ではコクサッキーウイルスA群6型による手足口病の流行の報告もあり、罹患歴のない0～1歳児はこのウイルスの感染も疑われ、年齢層によって罹患するウイルスが異なる可能性も考えられます。

コクサッキーウイルスA群6型は一般的に手足口病よりもヘルパンギーナの原因ウイルスとして知られています。今夏のコクサッキーウイルスA群6型による手足口病患者は、2011年と同様に大きな水疱の形成や、水痘様の発疹が見られるとの臨床情報もあり、特徴があるようです。

表2. 今夏の手足口病患者の遺伝子検査結果(7月24日現在)

検体採取日	年齢	エンテロウイルス遺伝子検査結果
6月27日	10ヶ月	陰性
7月2日	2歳	陰性
7月2日	2歳	陰性
7月5日	1歳	陰性
7月5日	3歳	陰性
7月6日	4歳	エンテロウイルス71型
7月8日	7ヶ月	陰性
7月8日	4歳	陰性
7月11日	10ヶ月	エンテロウイルス71型
7月12日	3歳	エンテロウイルス71型
7月13日	4歳	エンテロウイルス71型
7月16日	5歳	コクサッキーウイルスA群6型

(ウイルス・疫学情報チーム 米田 記)